

議事録	会 議 名			
	第 2 回静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会			
日 時	平成 30 年 3 月 22 日 (木)	10:00~12:00	会 場	沼津商工会議所 4 階大会議室
出席者	一般財団法人静岡県サッカー協会 専務理事			竹山勝自
	一般財団法人静岡県サッカー協会東部支部 会長			坂根英夫
	アスクラロスルガ株式会社 代表取締役副会長			山本浩義
	アスクラロスルガ株式会社 代表取締役社長			渡邊隆司
	静岡県東部地域スポーツ産業振興協議会 (E-Spo) 専務理事			宮崎眞行
	NPO法人沼津市体育協会 会長			臼井勇二
	法政大学経済学部 教授			杉本龍勇
	NPO法人くらしまち継承機構 理事長			伊藤光造
	静岡県商工会議所連合会			欠席
	静岡県商工会連合会			欠席
	沼津商工会議所 専務理事			杉山金芳
	沼津市商工会 事務局長			喜多 晋
	NPO法人沼津観光協会 会長			土屋雄二郎
	沼津市自治会連合会 会長			榊原昭雄
	一般社団法人沼津青年会議所 専務理事			山本真太郎
	三島市 商工観光課地域ブランド創造室長			千葉 敬
	富士宮市 スポーツ振興課長			長谷川和彦
	富士市 スポーツ振興課統括主幹			平野真一
	裾野市 生涯学習課長			木原慎也
	清水町 企画財政課長			高嶋広幸
沼津市 産業振興部長			光林 治	
静岡県 東部支援局長			広岡健一	
静岡県 都市局長			小澤伸行	
静岡県 スポーツ振興課長			都築直哉	
サンフロント 21 懇話会事務局 静岡新聞社・静岡放送東部総局長			海野俊也	
議 事	(1)	規約改正		
	(2)	J 2・J 1 スタジアム要件の整理		
	(3)	愛鷹多目的競技場調査の現況 (沼津市委託事業)		
	(4)	新スタジアム構想の先行事例紹介		
	(5)	新スタジアムの検討にあたって踏まえない視点		
	(6)	将来の検討の展開について		

意見交換 要旨

【事務局説明（愛鷹競技場と新スタジアムの関係性）】（詳細は会議資料 2-2 を参照）

愛鷹競技場の J2 対応改修に必要な 6 つの改修項目のひとつである「観客席すべてを覆う屋根」については、非常にハードルが高く現実的ではない。この項目は別途ホームスタジアムの建設が予定されていればクリアできる可能性がある。そのため、愛鷹競技場改修案は、「新スタジアム建設構想」が前提となっている状況である。

【県都市局・小澤】

愛鷹競技場の J2 対応改修には、沼津市（事務局）が説明したように屋根の問題もあるが、諸室の改修面についても各部屋の機能や配置等も関係し、非常にハードルが高いことをみなさまにもご承知いただきたい。

【県サッカー協会・竹山】

愛鷹競技場改修も新スタジアム建設もすでに事業主体が決まっているならばこの連絡会で意見も出ると思うが、誰がやるのか、誰がどのくらい負担するのかといったことからこの会で検討することは難しい。沼津市や県などでやると決まっていれば、例えば募金活動について関係者でどのようにやろうかなど話は進めて行けると思う。

【会長・杉本】

- ・愛鷹競技場改修も新スタジアム建設も大きな費用のかかることではあるが、大事なのは地域としてコストではなく投資として考えそれを長期でどう回収していくか。
- ・この 6 月期限の 2019 シーズンライセンス申請は、いま愛鷹競技場の工事を始めても物理的に間に合わない状況であり、地域の人にある程度納得してもらうには新スタジアムを含め 10 年間などのスパンで投資として理解してもらうべき。

【副会長・伊藤】

新スタジアムは、まちづくりの観点からこの地域にどれだけの価値を見出せるかが大切で、新スタジアム構想は今後最大限の価値を生み出すためにとりあえずスタートを切るためのパイロットプランという位置づけではないか。

【会長・杉本】

「構想」といっても実現を前提にしたものからパイロットプランのレベルまでさまざまな形がありうるが、進めていくというメッセージ性や実践を伴うものとするためにあえて「構想」という呼び方でいきたい。

【沼津市・光林】

新スタジアム構想の建設事業主体は、プロスポーツという点からまずは民が中心となり、本市含め行政及び東部全体で支えるものを模索していきたい。

【県東部支援局・広岡】

次回第 3 回連絡会では、沼津市が進めている愛鷹競技場の調査結果の報告があるということなので、それと併せて、いつ J2 ライセンス申請をするのか現実的なスケジュール・ロードマップ案を示してほしい。翌シーズンライセンスの申請期限となる 6 月に毎回ざわざわするのはよくない。

【県サッカー協会東部支部・坂根】

沼津市長が不在となった今、この連絡会での検討は継続するのか、それとも新たな市長のもとで再スタートするのか。

【沼津市・光林】

沼津市としては、ホームタウンとしてなんら変わらず進めていくものと考えている。

【会長・杉本】

サンフロント21の提案にもあったとおり、人を呼び込む仕組みとするため、サッカーに限らない複合的なスタジアムを考えていくべきと思う。また、スタジアムの恒常的な収入源確保という「多角的な経営」の視点は非常に重要で、東部地域の特徴を踏まえたスタジアムを検討したい。

【県都市局・小澤】

吹田スタジアム（Panasonic Stadium Suita）に視察に行ったが、将来の大規模改修費積み立ても含み黒字採算となっているとのことで参考になった。

【沼津市体育協会・臼井】

新スタジアムは、東部全体のスタジアムを作るという前提に立つと大勢で話し合う方がよい。

【出席自治体の主な意見】

アスクラロと締結しているパートナーシップ協定の範囲での協力はできると思うが、施設への資金的な支援は困難。アスクラロがもっとチーム力を上げて、かつスポーツ教室等を通じて地域への貢献が進むといったことが、今後重要になってくる。

【E-Spo・宮崎】

- ・新スタジアム建設も愛鷹競技場改修もお金がかかり東部全体でやっというもので、それには県の応援をもらわなければならない。本日も「沼津」という発言があるが、東部の市町で応援し、東部のスタジアム、という形をとるべき。アスクラロとパートナーシップ協定を締結した自治体や関わりたいと考える民間事業者と一緒に E-Spo のクラブスポーツ部会においてスタジアムの検討を定期的に継続して行っていきたい。
- ・私の意図する行政の支援は、資金面のことではなく、行政側が民間事業者や市民に働きかけて経済を誘発しようということ。

【会長・杉本】

各自治体からの話にもあるように行政から資金面での支援は非常に厳しい。スタジアムなど、一方的に自治体に用意せよという姿勢は J リーグに限らず日本のスポーツ団体の問題で、自分たちでお金を集める視点やビジネス感覚がない。民間のアイデアを入れて、コストではなく地域での投資として考えていかなければならない。その面ではお金がないということで出さない自治体には将来うまみがまったくないこともありうる。

【沼津市自治会連合会・榊原】

沼津だけでなく近隣も含め、自治会組織をいかに利用していくか、どのように自治会が関わっていくのが課題。新スタジアム構想がある程度できた時点で自治会組織に落とし込んでいくと話が進みやすいかと思う。

【副会長・伊藤】

競技スポーツやクラブスポーツの他、地域住民のレクリエーションも含めたスポーツ（コミュニティスポーツ）も盛んなので、その視点も新スタジアム検討には入れたい。

【会長・杉本】

コミュニティスポーツ、住民目線を大切にしないと最終的にチャンピオンスポーツが支えられてこない。何かを建設する際に全員が賛成することはない。過半数の賛成を得て作って、その後、やっぱりあってよかったと言われることが大事。

【沼津市商工会・喜多】

サンフロント21の提案が実現するとなれば、原・浮島地区の事業者にとっては販路拡大・ビジネスチャンスの期待がある。

【沼津商工会議所・杉山】

- ・施設については、どれだけ市民生活での利用ができるかが問われてくる。
- ・愛鷹競技場をJ2用に改修しても、将来J1を目指せる段階でまた同じ問題が起こる。愛鷹競技場でのJ1対応改修は考えないのか。

【アスルクラロ・的地（連絡会事務局）】

愛鷹競技場は例えば諸室の面でもJ1要件を改修でクリアすることはできないとJリーグからすでに指摘されている。アスルクラロがJ1まで目指すには、いずれにしても新スタジアムが必要となっている。

【会長・杉本】

新スタジアムができて集客が少なければ経済効果等は限定的になる。どのくらい集客できるか現時点のアスルクラロの考えはどうか。

【アスルクラロ・渡邊】

昨シーズンのアスルクラロホームゲームの平均客数は約3,000人だったが、これを今シーズンは4,000人にしたい。一気に好転することはないので、いろいろなことを地道にやっていって毎シーズン少しずつ増やしていく。

【県サッカー協会東部支部・坂根】

広域でやっていくということだが、現状では、なぜアスルクラロに協力しなければならないのか、という声もある。アスルクラロには、チーム名も含めて検討をお願いしたい。

【会長・杉本】

この地域がどうスポーツやスタジアムを活用してまちづくりしていくかという視点をもって、全員がWinWinの関係になれるような展開を目指し、しっかりプレゼンができるような新スタジアム構想を作っていきたい。

発言録（要旨）

発言者 (敬称略)	内 容
沼津市 高橋	<p>年度末のお忙しい中お集まりいただきありがとうございます。ただいまより第2回静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会を開催します。</p> <p style="text-align: center;">＜ 大沼沼津市長の死去について一同黙祷、沼津市光林産業振興部長よりあいさつ ＞</p> <p>本日の出席者は資料のとおりです。なお、本日の会議は公開の上行われることをご承知ください。それでは杉本会長からごあいさつをお願いします。</p>
会長 杉本	今回は、目指すべきスタジアム方向性について広く意見を交わしたいと思います。ぜひ積極的な発言をお願いします。
沼津市 高橋	それでは議事に入りますので、以後は杉本会長に進行をお願いします。
会長 杉本	議事1「規約改正」について事務局より説明願います。
沼津市 高橋	資料1をご覧ください。第1回連絡会后、本来の会員が誰なのかわかりにくいという意見が寄せられていました。不備について申し訳ありません。本連絡会の議論は、東部地域のまちづくりに広く関わることでありますので、発起の段階では各団体の長に宛てて出席依頼をしていました。については別紙案のとおり規約を改正し、明記することを提案します。
会長 杉本	何か不都合な点や加えたほうが良い点などあれば意見ををお願いします。
	＜ 「異議なし」の声 ＞
会長 杉本	意義のない方は拍手をお願いします。
一同	＜ 拍手 ＞
会長 杉本	それでは規約についてはこのような形で進めていきます。
会長 杉本	議事2「J2・J1スタジアム要件の整理」に移りますので事務局より説明をお願いします。
アスル クラロ 的地	Jリーグクラブライセンス制度について資料2-1により説明します。すべてのJリーグ加盟クラブは毎年6月に翌シーズンに所属したいカテゴリーのライセンス申請を行います。ライセンスは1シーズンのみ有効となります。現在アスルクラロ沼津がこの6月に申請するのは、2019年シーズンになります。審査は競技基準、施設基準、人事・組織運営基準、法務基準、財政基準の5つの基準に基づき行われます。J1・J2のライセンス審査はJリーグが設置したクラブライセンス交付第一審機関（FIB）が行います。FIBの構成はJリーグ関係者ではなく、弁護士などにより構成される団体とお考え下さい。上位のカテゴリーで申請して交付決定されなくても、充足するカテゴリーでライセンスが交付されます。アスルクラロ沼津で

	<p>は、J 3 ライセンスは交付されている状況で J 2 以上のライセンスを取得するための準備を行っているところです。各クラブがつぶれないよう適正な運営をしていくため、FIFA 国際サッカー連盟からライセンス制度により各クラブを審査するよう J リーグに働きかけがあったものです。</p>
<p>沼津市 河本</p>	<p>資料 2-2 をご覧ください。前回の連絡会では、現在のホームスタジアムである県営愛鷹多目的競技場と新スタジアム建設がどう関係するのかわかりにくい部分があったかと思しますので説明します。</p> <p>愛鷹競技場を J 2 基準に適合させるとした場合、客席の増設、照明設備の照度向上、映像装置整備、トイレ改修・増設、メインスタンド下の諸室整備、全客席を覆う屋根の設置、という 6 つの整備項目があります。これらは J リーグが公表している基準について、沼津市業務委託において専門事業者と検討した結果です。</p> <p>このうち問題となっているのは、「全客席を覆う屋根の設置」であり、物理的にも金銭面にも、工期面でもハードルが非常に高い状況です。黄色枠線の囲み内は、J リーグから明確な明文規定はなくわれわれが J リーグから聞き取りを行った内容で、要件を満たす別のスタジアム建設が予定されていれば、この屋根の設置はなくても容認される可能性があるというものです。現在、他の地域の J 3 チームでも数は少ないが同じ状況のところがあります。</p> <p>新スタジアムが予定されているということは、構想ができていくということで、その構想に含む要素には三つ考えられます。これらは J リーグと協議する中で見えてきたものです。一つ目に、誰が建てるのかという建設事業の主体です。二つ目に、新スタジアムがいつ完成し、それまでにいつ建設事業主体が設立されて、というような大まかなロードマップです。三つ目に設置場所です。J リーグとの話の中では、明確な町名等まで決めなさいということではないという状況で、設置場所について今後探っていくという程度になると思います。</p> <p>緑の点線内ですが、愛鷹競技場を J 2 対応改修するとした場合の要点をまとめています。一つ目に、屋根設置を J リーグに免除してもらい関係から新スタジアム建設の予定が前提となっていること、二つ目に、愛鷹競技場の利用他団体や県民の理解が必要ということ、三つ目に設計・工事に時間がかかることです。</p> <p>以上、愛鷹競技場と新スタジアムをなぜ同時に考えなければならないかの説明でしたが、この二つは切っても切り離せない関係にあるということになります。以上、説明を終わります。</p>
<p>会長 杉本</p>	<p>前回の第 1 回連絡会では、この部分が不透明、わかりにくい状況だったと思います。愛鷹競技場と新スタジアムの関係性について何か質問等あればお願いします。</p>
<p>静岡県 都市局 小澤</p>	<p>私たちも沼津市と一緒に 2 月冒頭に J リーグ側にヒアリングしています。先ほどの沼津市の説明のとおりですが、屋根の整備以外にも資料 2-2 の改修項目 5 つ目の「諸室の整備」についてはハードルが高い印象でした。J リーグからは諸室の絶対数が足りない、ドーピングコントロール室についても広さが足りないと言われていました。審判更衣室のシャワー等水回り整備も必要で、救急車がすぐ着けられる医務室が必要といった配置面の課題もあり、諸室改修についても非常にハードルが高いということをご承知いただきたいと思っています。</p>

<p>県サッカー協会 竹山</p>	<p>愛鷹競技場の改修はコストがかかる中、誰がお金を出すのか、誰にやってもらうのかこの連絡会が話し合っても難しい。新スタジアム建設についても、誰がやるのか、例えば沼津市か県なのか決まってから、例えば募金活動など民間やサッカー協会がアスルクラロとどこまでできるのかといった話し合いができれば市民と一緒にやっていけると思いますが、ただ愛鷹競技場の改修と新スタジアムのハードの面を示されて意見を出せと言われてもなかなか言えない。連絡会に集まっているのは専門家や商工団体等であって、スタジアムは誰がやってどうお金を出すのかをここで話し合うのは難しい。例えば幹事会があってそこで話がまとまって提案されないと進まないのでは。</p> <p>前回の連絡会で県からは、県内の他のJリーグクラブにお金を出してきていない状況でなぜ東部に、という話もあり、これらも含めて意見をまとめていかないと進まないと感じました。</p>
<p>会長 杉本</p>	<p>愛鷹競技場改修も新スタジアム建設もコストのかかるもので、そこは注視されているところではあります。この後の議事でうまくもう一步深い意見を出せていければと思うが、大事なのは、投資した後、リターンがあるかという考え方を持てるかどうかです。建てた後、回収している公共スポーツ施設は日本にはありません。そこがやはり問題視されている部分です。</p> <p>従来のやり方、つまり、スタジアムを建て税金を投入して管理する、それが指定管理者であっても、という考えではなく、投資して回収していくという考え方になるようなロードマップや構想・アイデア自体を考えていかなければならない。この連絡会への商工団体の参加もその部分だと思います。この連絡会でも、コストではなく投資というようなまとめができていけば。この連絡会の共通認識としたいのは、愛鷹競技場の改修ができればいいとするのではなく、これが投資になる以上、確定とはこの場で言えないが、新スタジアムを作って最終的にはアスルクラロのライセンスも同時に考えていけばいいということです。</p> <p>まして、2019 シーズンライセンスは、愛鷹競技場の改修をいま始めたとしても物理的に間に合わないのが現状と思います。関係者だけではなく、地域に住むすべての人にある程度納得してもらう形に持っていくには、2019 シーズンのライセンスではなく、5年後、10年後のスパンで、投資としてきちっと理解してもらうべきと考えます。</p>
<p>副会長 伊藤</p>	<p>この連絡会は、新スタジアムの構想を作ろうというもので、会長から投資をどう考えるかという点が示されました。私はまちづくりの視点が構想づくりのベースにあると理解していて、その点では新スタジアムがこの地域にどれだけの価値を見出せるかというものと考えます。</p> <p>この連絡会にはいろいろな立場の方がいます。それぞれの立場から見て、どのような価値が構想から生み出せるか、という視点で意見をいただくのがよいのではと思います。それぞれの立場からこれは難しいといったことも当然あると思うがそれはそれで出してもらえれば。</p> <p>私の考えとしては、新スタジアムの構想は、今後、大きな、最大限の価値を生み出すためにとりあえずスタートを切るためのパイロットプランだと思います。</p> <p>まとめるべき構想についてはいつまでにまとめたらいいか、それにはどのような内容を備えたらいいか事務局から捕捉をしてほしい。</p>

沼津市 河本	<p>構想といった際のレベルはいくつか考えられます。4回では、おそらく今後詰めていかなければならない分野の抽出、課題出しというレベルになるかもしれないが4回の連絡会でまとめたいと考えています。ただし、建設事業主体など、コアになる部分は、時間的な問題、地域の議論の煮詰まり具合があるので4回では難しい印象です。</p> <p>4回で出来たものは、その後、課題ごとにそれぞれいろいろな場で詰めていって、これをＪリーグに、いまこの地域ではこのように進んでいるものとして提出する時期が来るが、その時期はいまはっきり言えません。愛鷹競技場Ｊ２対応改修について屋根整備要件をＪリーグに容認してもらおうというつもりでアスルクラロがＪ２ライセンス申請を行う際には、構想はコアな部分を含んで出来ていないとなりません。</p>
沼津市 光林	<p>愛鷹競技場のＪ２対応改修については、沼津市で現在調査を行っており、設計期間や工期なども含めた成果を次回第３回連絡会で示すことができると思います。</p> <p>新スタジアムの構想の建設事業主体は、大沼市長もそうであったが、プロスポーツという点からまずはアスルクラロを中心に、民の団体において、そして本市や周辺市町、東部全体で支えるような建設事業主体というものを模索したいと強く思っています。やはり東部全体で投資が生まれ、そしてスポーツ以外にも使ってもらふ施設としていくためには、どこがといま限定するわけではないが、周りの自治体も全部入って支えるようなものを考えたい。</p>
県東部 支援局 広岡	<p>沼津市の愛鷹競技場の調査結果が次回に示されるということだったので、その際に、スケジュール案を示してほしい。例えば、来年に申請するとしたらどうなのか、その先に申請するとしたらどうか、という、スケジュール、ロードマップを示したほうが、みなさんがわかるのでは。毎年６月にざわざわするのはよくないと思います。</p>
県サッ カー協 会東部 支部 坂根	<p>素朴な質問ですが、市長がここで不在になった中、この連絡会での検討はそのまま続けるものか、それとも新たな市長のもとでスタートするものなのか、そこを聞きたい。</p>
沼津市 光林	<p>沼津市としては、大沼市長が発起人代表あいさつでも述べたように、その意思をしっかり継いでホームタウンとしてなんら変わらず進めていくものです。</p>
会長 杉本	<p>愛鷹競技場と新スタジアムをどうやっていくか、という点もある中、構想という言い方は、ほぼ実現するものという考えもあれば、もっと柔らかなパイロットプランという考えもある。</p> <p>このような会議はさまざまな分野で行われるが、やって終わりになるパターンがほとんど。私としては構想という名前をあえて使って、進めていくんだというメッセージ色、力強さをあえて出していきたい。みなさん忙しい中、わざわざ集まっているので、思いだけではなく、実践を伴うという点であえて構想として進めていきたい。</p> <p>以上、Ｊ２・Ｊ１スタジアム要件の整理というこの議題はここで切り上げて、後の議題５「新スタジアムの検討にあたって」で議論を深めたいと思います。</p> <p>次の議題「愛鷹多目的競技場調査の現況」に移ることとして、事務局から説明をお願いします。</p>

沼津市 河本	<p>沼津市が委託事業として実施している調査事業について、資料3を説明します。この委託事業は昨年12月初旬から今月末までを期間とし、静岡県関係部署のご協力を得て実施しています。調査の一つ目としてソフト調査、愛鷹競技場を改修したことによる賑わい効果がどの程度あるかというのがあります。そもそも愛鷹競技場はアスルクラロのためだけの施設ではなく県東部のスポーツの中核施設であり、改修によってただライセンスが取れば良いということではないため、東部地域にどの程度メリットがあるかを調べるものです。アスルクラロの将来のJ2・J1に昇格した際の東部全体へのプラスの効果についても検討するものです。</p> <p>二つ目にハード調査です。愛鷹競技場のハード面でのどのようなハードルがあるのか、現実的に改修が可能なのか、概算費用はどの程度か、他団体の利用もある中、工期はどの程度かという調査になります。</p> <p>次回第3回連絡会で、抜粋にはなりますが報告します。</p>
会長 杉本	<p>次に、新スタジアム構想の先行事例紹介として、本日お越しのサンフロント21懇話会事務局の静岡新聞社・静岡放送の東部総局長の海野様からお願いします。</p>
サンフ ロント 21懇 話会事 務局 海野	<p>サンフロント21では、沼津市商工会から「原・浮島地区の将来性が豊かであることから、道の駅を作りたい、この地区の将来像を描いてもらえないか」という要請を受け、昨年秋、「新旅客駅、新スタジアムを核とした原・浮島地区まちづくり構想」というものを上梓しました。昨年10月に川勝県知事、大沼市長に報告、提案しています。</p> <p>大沼市長からは大変すばらしい、夢があるということで、鉄道高架反対派の方々のところにもお持ちして大変熱心に示してくださいました。市長の意思を継ぎましてこの構想を何とか実現に向けて動きたいと思えます。</p> <p>それでは資料に沿って説明します。</p>
<p>< 資料説明 ></p>	
<p>資料の捕捉としてですが、新スタジアムの立地については鉄道駅近接、あるいは徒歩圏内というのが私たちサンフロント21からの提案です。</p> <p>本日紹介した構想、提案は、原・浮島地区の将来の可能性、こんなことができるというもので、実現にはいくつものハードルがあります。一方で、この連絡会が全4回を予定しており、そしてアスルクラロへの市民の期待が大きいだけに残された時間はあまりないと思えます。残り2回の連絡会ではまちづくりの根幹になる新スタジアム構想の結論まで至るのは難しいと考えます。であるならば、どのような立地条件か、どのようなスタジアムであるか洗い出すこと、そしてスケジュール感を作ることが非常に大事になると思えます。大沼市長の意思も継ぎ、ぜひこの連絡会で具体的な構想を作り上げていただきたいと思います。</p> <p>提案はサンフロント21のホームページに構想全容を公開していますのでご覧ください。</p>	
会長 杉本	<p>ありがとうございました。</p> <p>将来、2050年までに三大都市圏に日本の人口の60%が集まるといわれています。昨年、静岡市</p>

	<p>が政令指定都市で初めて人口減になりました。今後、東京、千葉、埼玉、神奈川など首都圏以外は人口が減っていく現状があります。サンフロント21の構想をすべて踏襲して連絡会が構想を作るわけではないが、サンフロントの提案にもあったように、交流人口なのか定住人口なのかもあるが複合的に人を呼び込む仕組みを作っていかなければならない。サッカーだけのスタジアムはこの社会情勢の中ではマッチングしないので、新スタジアムにおいてはこの点を前提条件に考えていきたい。</p> <p>それでは次の議題「新スタジアムの検討にあたって踏まえてほしい視点」に移りますので、事務局から説明をお願いします。</p>
<p>アスル クラロ</p> <p>清水</p>	<p>資料4「検討材料～新スタジアムの検討において踏まえてほしい視点～」をご覧ください。先ほどから話が出ている意見をまとめたような内容になっていますが読み上げて説明します。</p> <p style="text-align: center;">＜ 以下、資料内容 ＞</p> <p>スタジアムへの期待として、一級のサッカースタジアムとしてはもちろん東部地域の賑わいの中心となること、そしてできるだけ自立して運営していくということがある。投資に対してしっかりとしたりターンを得る競技場をまず目指すことが大前提となる。</p> <p>そして、検討に踏まえてほしい視点1に、スタジアムの多角的経営として、サッカー以外の来場・消費を高め、恒常的な収入を確保する。</p> <p>視点2に、東部広域での効果として、1・東部地域のサッカー振興、2・経済効果、3・東部住民の賑わいや憩いの場となることが考えられる。経済効果には例として、ホームゲーム来場者のスタジアム周辺での消費や観光地消費、ホームゲーム以外の来場者のスタジアム消費やビジネス利用が考えられる。</p> <p>視点3に、地域での共有化として、地域の人に課題を共有してもらい、将来の新スタジアム建設・運営に積極的に参画してもらえよう素地を作る、というものが考えられる。</p> <p>これらを踏まえるとスタジアムはまちの共有財産であるということ、サッカースタジアムではなく（に限定するものではなく）まちをつくるという視点で新スタジアムを捉えていただけたらと思います。</p>
<p>会長 杉本</p>	<p>それではこの後は先ほどの議事「スタジアム要件の整理」でも意見は出ましたがさらに深めて意見交換をしていきたいと思います。</p> <p>資料4では多角的経営の視点は大事だと思います。サンフロント21の資料にもあった複合型スタジアム参考事例のフローニンゲンのユーロボークに私も行ったことがあります。フローニンゲン市は人口の約半分が大学生というくらい大学で有名な街で若い人口が多い。ここはショッピングセンターがあってビジネスユースのスペースがあって地下に駐車場があるという作りでした。ただ、これをそのまま持ってくるのは可能ではないので、東部地区の特徴を踏まえてどう多角的な経営ができるかだと思います。</p> <p>立地の場所については、サンフロント21の提案の場所に、ということではない（決定するわ</p>

	<p>けではない) し、ロードマップ上という点でも建設主体がどの主体になるのかも含め、本日の議論では多少紛糾してもかまわないと思うので、意見があれば出してもらいたい。</p>
<p>静岡県 都市局 小澤</p>	<p>オブザーバーとして参考に紹介します。先週沼津市と都市局で吹田スタジアム (Panasonic Stadium Suita・市立吹田サッカースタジアム) に視察に行きました。</p> <p>ホームタウンの吹田市は約 40 万人弱の都市ですが、1 市でまかないきれないということで、14 市 3 町がホームタウン地域を構成しているということでした。</p> <p>交通アクセスは、鉄道駅のそばの徒歩圏内、高速道路がすぐ横を通っています。ららぽーとが反対側にあり、人を呼ぶ仕掛けができていますと感じました。</p> <p>年間の利活用の面では 600 件近く、サッカーはそのうち約 40 件弱 (J 1 のガンバ大阪、J 3 のガンバ大阪 U-23) と聞きました。私たちが行った時には、結婚式の前撮りを行っていました。採算は、将来の大規模改修の貯金もした上で黒字になっているということで、非常に参考になりました。</p>
<p>県サッ カー協 会 竹山</p>	<p>サッカー協会にとっては、スタジアムができてそれが街と一緒にしていけば最高の話です。先ほどから東部地域という言葉も何回も出ているので、関係する方の意見も参考に聞きたいと思います。</p>
<p>会長 杉本</p>	<p>経済効果としては決して沼津という地域だけに留まる話ではないと思います。東部、もしかしたら中部まで波及していく可能性もあるでしょうし、箱根などにも広げていけるといふところまで経済効果は考えていくべきだと思います。その上で意見をお願いします。</p>
<p>E-Spo 宮崎</p>	<p>E-Spo は富士川以東の 20 の市町と民間が入って、84 の団体から組織されています。この協議会にはクラブスポーツによる地域の賑わいづくりで産業おこしをしようというクラブスポーツ部会があります。わたしたちは産業という視点で考えていまして、その点から言うと多目的なスタジアムというのはいいと思います。アスルクラロをなぜ私たちが応援するかというと、サッカーばかりではなく他のスポーツもやっている、そのようなクラブスポーツというヨーロッパ型のスポーツシステムが東部で確立しないかと考えているからです。</p> <p>アスルクラロとパートナーシップ協定を結んでいる自治体は基本的にアスルクラロを応援するという姿勢で、本日も参加していると思います。</p> <p>新スタジアムはお金もかかり調整やスケジュール感も必要であり、愛鷹競技場と併せて、新スタジアムの構想を将来実現していこうという状況です。そのため、県に応援をもらわなければならない。今日も、ところどころ「沼津が」という発言があるが、極力東部の市町で応援し、東部のスタジアムだという形をとらないと、県は動けないと思います。</p> <p>構想をやるにしても、沼津だけでは絶対できないと思います。民も含めて東部が人的にも資金的にも応援する形をとらない限りうまくいかない。</p> <p>私たちの提言ですが、私たちのクラブスポーツ部会で多少でも、スタジアム夢会議という名前をつけてもよいので、パートナーシップを結んだ自治体や民間も入り応援部隊としてこれを検討させてもらって、提言・意見を挙げさせていただくということを考えています。</p>

会長 杉本	アスクラロ沼津という名前のクラブチームのホームスタジアムなので、「沼津」が先行しがちですが、富士川以東の各自治体、地域がどう絡んでいくのかが重要。自治体にとっても非常に重要な役割を担う可能性がある新スタジアムですが、本日出席している沼津以外の自治体の方どうでしょうか。
沼津市 体育協 会 臼井	東部全体のスタジアムを求める、というのが大前提だと思います。誰がどこでやるのかも大きな、それがまずスタートでしょうけれど、東部全体のスタジアムを作るんだということでは、大勢で話し合う方がいいと思う。下田、熱海などからすると、自分たちは関係ないという雰囲気だとは思いますが。
三島市 千葉	三島市のスタンスとしては本市が E-Spo の事務局をしていることもあり、日ごろから行政区域というより広域の活動が重要になるととらえています。従前から三島市としてはアスクラロの活動には全面的にバックアップさせていただいています。この案件にも広域の視点を持ってバックアップ、できる限りのこともやらせていただきたいと思います。 これ以外の案件についても積極的に広いエリアで協働して活動していくことが重要と考えています。
富士宮 市 長谷川	パートナーシップをアスクラロと締結したことから本日出席しています。基本的にどこまでできるかということ是非常に微妙なところと思っています。他の市町もそうでしょうけれど、協定の中では協力はできるかと思っています。実際、資金面では非常に難しいところと思っています。自分たちのところにスタジアムを持っているということではない状況で、どこまで協力や関わりができるかは難しい。いろいろな事業に対しては協力していけるのではと考えています。
富士市 平野	新スタジアムをまちづくりとして考えるということだが、大前提としてアスクラロが J 2・J 1 にならない限り、そのバリューは発生しないと思います。チーム名に沼津と入っていることもあり、富士市民がアスクラロを応援しようという状態になっているかという現実はそのようではない。チームとして教室などもやっていただくということでパートナーシップをもとに協力していきたいところはあるが、まず J 2・J 1 を目指していかないとスタジアムのバリューも生まれてこないともいます。そうなっていったら、富士市民が東部のチームとして応援したいという気概が生まれてくれば、そこに市が一定の経済的投資をしようとか（ありうる）。サンフロントの提案した立地では、富士市のほぼ市内といってもいいくらいの場所なので経済効果は生まれやすく、協力はしやすいと思います。J 2 になるにはスタジアムがないと、という卵が先か鶏が先かという面もあるが、チーム力を高めることや地域へのスポーツを通じた貢献をぜひ一緒にやっていって、アスクラロを東部のチームとして応援できるような体制をまず作るのが大事かと思っています。
裾野市 木原	裾野市は今回から、パートナーシップ協定をもとに参加しています。できる範囲の協力はしていきたいと思いますが、人員・資金の面では現状は非常に厳しい状況です。
清水町 加藤	裾野市と同様です。今回から、パートナーシップ協定をもとに参加しています。今日の話を通じて進めていくにあたって課題が多くあるなど認識しました。町としての課題も整理した上

	<p>で、どこまで協力できるかを町の中で考えて方向性を見出していきたいと思います。</p>
<p>会長 杉本</p>	<p>第1回連絡会でもJリーグに来てもらった際にも言いましたが、Jリーグが各自治体にスタジアムを作れというならもっとネゴシエーションすべきというのが私の考えです。一方的に枠組みだけ作って自治体に用意せよというのは、Jリーグやサッカー協会だけでなく日本のスポーツ団体全体の一番だめなところだと思います。お金を集められないのに意見だけ言う、補助金でなんとか賄っているのが実情で、ビジネス感覚が足りない。</p> <p>地域とうまくやっていくというところではどこも話が煮詰まっていないのが現状。沼津と名前がつけば地域貢献なのかと言ったらもうそうではない時代。海外にいた経験から踏まえると、各クラブの機能自体が、地域の経済における仲介業者としての役割を担っている例がたくさんあります。チームをサポートすることによってどうその企業につながっていくのかという視点。あるいはサッカーに関わることにより、どう自分たちのビジネスに展開していけるのか、ということクラブ自体が提案できるのが海外クラブの強味ですし、それができて初めてスポーツクラブ自体がビジネスにつながりそのツールとしてのスタジアム、というようにとらえなければ。アスルクラロがこれから力をつけていく、有名になっていく中で、これまでのJリーグのクラブチームのやり方を踏襲しても全く意味がないので、そういった中でスタジアムを考えていくのが重要だと思います。</p> <p>いまの各自治体からの話にもあるように、資金面でのサポートは非常に厳しいのは実情ですし、コストではなく投資としてスタジアムを作りましょうという発想ならば、民間のアイデアをきちっと入れていかないとできないと思います。クラブ自体も協会自体も、どこからか補助金が下りてきてそれをなんとか分配して運営していきますではなく、自分たちで資金を作り先行投資して、10年後、20年後にきちっと回収していくというマインドのもとに今回のスタジアムも構想しなければ、作った時に利権にたかる人が集まり、最終的に黒字にならないといったことや、おれたちの所有物だという団体がたくさん出てきてしまいかねない。</p> <p>資金的に難しいということで、民間や自治体から資金を入れた場合、その比率でそれぞれへのリターンは変わってくるので、建設に関してもこの点も考えていく必要があります。多角的に資金を集めた場合、誰が一番権利を持っていけるのか、考えていく必要はあると思います。</p> <p>県も含め自治体にとってお金がないということで出さなかった場合、将来実現した後にその自治体にうまみはまったくいかないということもありえますし、民間が全部出すことになればイニシアティブは民間に行き、後になって自治体が頭を下げていかなければならないことも十分ありうるということまでこの時点で考えるべきだと思います。</p>
<p>沼津市 自治会 連合会 榎原</p>	<p>沼津市とアスルクラロは協定を結んでおり、自治体連合会の定例会にも来ていただいています。個人的意見になりますが、今まではあまり後押しできなかったのがこれからもう少し力を入れてやっていきたいと思っています。</p> <p>沼津ばかりではなく、近隣の三島、富士、熱海、このあたりの自治会組織をいかに利用していくか、どのような形で自治会が関わっていくのかこのあたりが課題だと思っています。個人的な意見ですが、構想がある程度できた時点で自治会組織に落としていく方が話は進みやすい</p>

	<p>かと。新スタジアムの件については、近隣の横のつながりがしっかりしないといけないかなと思います。静岡県の自治会連合会は東部・中部・西部に分かれており、東部は熱海の会長がまとめています。自治体をうまく使いながら、なるべく早めに構想をしっかり出して意見を述べ合った中でどんなところで自治会が関わっていけるのか考えていければと思います。</p> <p>補足ですが、沼津市連合自治会長 28 人でサッカーチームのある宇都宮に 6 月・7 月に勉強に行きます。</p>
<p>会長 杉本</p>	<p>地域全体の理解という点では、おこがましい言い方ですが、自治会をどう活用するのか、理解いただいて力強いサポートを得ていくかは重要と思います。</p>
<p>副会長 伊藤</p>	<p>まちづくり分野の観点からになります。私は静岡県コミュニティ推進協議会の専門委員をずっとやっています。いろいろなコミュニティと接する中で実態として、競技スポーツもあればクラブスポーツもある。もうひとつ、コミュニティのスポーツもすごく盛んです。沼津もそうだが東部地域の中でレクリエーションも含めいろいろなスポーツが行われています。それぞれの市町の体育施設もありますが、サッカースタジアムがコミュニティスポーツのひとつのメッカになる可能性はあり、その視点でも考えていきたいと思います。</p>
<p>会長 杉本</p>	<p>自治会の話も、コミュニティスポーツの話もでしたが、競技人口は全人口の数パーセントしかいない中、その視点でスポーツを語ってしまうとだめなのではないかと思います。私自身、競技者としてやってきて指導も行っています。先日まで冬季オリンピック・パラリンピックもありましたが、極論なくても世の中としては何とかあります。その意味では自治会、住民の方、コミュニティスポーツの方を大事にしないと、最終的にチャンピオンスポーツというものが支えられてこないと思います。今回新しくやる以上は、中のフィールドはトップチームがホームゲームを開催する場所であってもそれ以外のところにもきちっと目を向けていくのは絶対に失念してはいけない非常に重要なファクターだと思います。</p> <p>何かを建設するとき全員が賛成することは絶対あり得ませんし、51%の賛成は獲得して建設し、残りの 49%は、時間をかけて「やっぱりあってよかった」、むしろ「あのとき反対して損した」と言わせるようなところが非常に大事なのかなと思います。</p> <p>この席に商工会、商工会議所の方も参加されているが、スタジアムができた際にどういったことを期待するのか、厳密な計画はなくてかまいませんので簡単にお話ください。</p>
<p>沼津市 商工会 喜多</p>	<p>サンフロント 2 1 の提案は原地区に道の駅を作るという構想で、新旅客駅のそばに新スタジアムということが実現すれば非常にありがたいと思います。経済効果は沼津市で調査しているということだが、地元商工業者、農業者はそのようなものができれば販路拡大、ビジネスチャンスが広がるのではないかという期待感があります。</p> <p>東部地域ということであれば、商工会も私たちだけではないので周知発信していく必要があると思います。聞いていなかったとなってしまうのが危惧されます。</p>
<p>沼津商 工会議 所</p>	<p>前回の第 1 回連絡会の中でヨーロッパなどのスタジアムの例が紹介されましたが、スポーツに関わる人口が減ってきていると感じています。施設に関してはどれだけ市民生活の利活用ができる施設か、が問われてくると思います。他のスポーツもできる総合的グラウンドも必要</p>

杉山	<p>になってくるのではないか。交流人口を増やすためにも冠を設けたり、スタジアムに集まってきた人が利用する商業施設や健康増進施設をどれだけ備えられるのが大事だと思います。</p> <p>話が戻ってしまいますが、この会には愛鷹競技場をJ2に適合できるように、という一義的な目的があると思います。誰がやるのかなど課題をクリアしていく必要はありますし、コストではなく投資とすることで継続性を生むというのもそうだと思います。ただ、いまある施設をやはり使ってやるのがコストも投資も抑えられるという意味では、新しいスタジアムの構想もいいとは思いますが、愛鷹競技場が出てくると思います。新スタジアムの構想はどのような仕組みでどのような施設をと、時間をかけて周辺の市町のみなさんを巻き込んで作り上げていくことが大切とは思いますが、現状ある施設は愛鷹競技場である以上、J2で終わってしまうのか、またJ1を目指す段階になったらまた考えなければいけないのでしょうか。J3からJ2を目指すのとJ2からJ1を目指す場合、施設の課題は、資料2-2の6項目の他にもあるのでしょうか。アスルクラロの選手はがんばって上位にいたにも関わらず施設の関係でJ2に行けなかった（最終的に2017シーズンはJ3リーグ第3位となったため順位面でも昇格はない状況ではあった）というように考えると、またJ1に上がる時に同じような課題が出て、その際は新スタジアムが出来上がるまでもっと時間はかかると思います。県からも話があった通り、その都度考えるのではなく、愛鷹競技場でJ1への対応が可能でそれほど投資も変わらないのであれば（愛鷹競技場でのJ1対応の検討もすべきではないか）。会長から先ほどこの6月申請は難しいという話が出たので、それであればJ1も頭において進めないと思います。</p>
アスルクラロ 的地	<p>まず、J1とJ2のライセンスの大まかな違いですが、座席数以外に、「諸室」の部分においてもかなりの基準レベルが変わってきます。そういった点から愛鷹競技場の改修工事において最大限出来る可能性、耐えうる可能性として、仮に資料2-2の6項目をすべてクリアしてもJ1のスタジアムには到底改修では対応できない、という結論がJリーグからすでに指摘されています。</p> <p>アスルクラロのみの立場から言うと、J1まで目指すためにはいずれにしても新スタジアムが必要になるという結論に至っているのが現状です。ただ、これに伴ってクラブの強化、経済的な部分での成長も並行して行わなければならないのは私たちの課題でもあります。</p> <p>新スタジアムの方も並行してロードマップをきちんと作っていった上で、最終的にJ1で戦う場というのは新スタジアムのみ、と考えていただければわかりやすいかと思います。</p> <p>もし必要であれば、次回第3回連絡会で、J2・J1とどれくらいの条件が変わるのか一覧でお見せできますし、愛鷹の改修ではJ1では当然耐えられないという説明はできますが、愛鷹競技場を頑張って無理やり改修してJ2スタジアム基準を満たすというのが限界値という答えになります。</p>
会長 杉本	<p>関わっている人はやはり昇格してほしい気持ちにはなりますし、一方、勝てばお客が集まるわけではないという、スポーツの複雑でかつ面白い部分があります。アスルクラロにひとつ聞きたいのですが、1万5千人のスタジアムを作って1万5千人ちゃんと集客できるのか、自信があるのかという点です。箱は大きいものを作ってもいつも集まらないという状況では（困</p>

	<p>る)。Jリーグ各チームそうですが、例えばエスパルスやジュビロでも8割埋まってもそれ以上は難しい。浦和レッズのように毎試合4万人集まるといっても、ビジネス的には6万人が4万枚のチケットを争うのか、15~20万人が4万枚を争うのかでは当然チケットのプレミア感も変わってきます。箱の大きさを1万5千人に設定し、1万5千人毎回なんとか集めますというのはビジネスとして全然成功していかないと思います。</p> <p>スタジアムを作るのに、当然強くなるというのは必要だが一手段でしかない。どれくらい集められるのか現時点の考えでいいのでアスルクラロはどうでしょうか。</p>
アスルクラロ 渡邊	<p>J2に上がるには座席数では1万席以上が要件だが、昨年シーズンのわたしたちのホームゲームの平均客数は約3,000人です。J2の2016年シーズンの平均観客数は約5,000人、J1では1万人近くなります。チームによっても違い、浦和レッズは毎回数万人集まります。1万席のスタジアムを整備しても現時点では満員にはできませんが、わたしたちはそれを毎回、毎年増やしていく。今年は厳しい数字ですが平均4,000人にしたい。強くなることプラスいろいろなことをやることによってそれを毎年少しずつ上げていく。魔法のように一気に好転することはありませんのでそれは認知していただき、少しずつ上げていきたいと思ひます。</p>
会長 杉本	<p>広域で経済効果を出そうといっても試合に5千人しか集まらず東部に散っていくのとそれが1万5千人であるのでは経済規模が全然違ってきます。クラブ自体が東部広域に対して利益を還元できるんだというマインドを踏まえた上で、協働で動くというのが非常に大事です。実際に私もエスパルスにかかわっていましたが、実際に行政とあまりうまくやれてない現状もあります。新しい箱を作っていくだけではなく、ソフトの面で地域に根差してサッカーが好きな人、スポーツの好きな人だけではなく、人柄も好かれるようなクラブやスタジアムになりそこが起点になるというのを考えていきたい。</p> <p>議事6「将来の検討の展開」へ移りますが、ロードマップを時限的にどうするか、まして連絡会は4回しかない。本日の意見や希望的観測を踏まえて、あと2回という状況では、方針・決意のレベルになるかもしれませんが、そういうものは出していったほうがいいのではないかと私は思っています。愛鷹競技場のこれからの活用と新スタジアム建設も踏まえて長期的にどうやっていくのかという視点が必要。</p> <p>突然ですが、E-Spoでは広域で展開しているという話なので意見を伺えればと思ひます。</p>
E-Spo 宮崎	<p>先ほども少しお話しましたが、20市町広域の協議会なので、アスルクラロを応援、支援していこうということを考えています。支援というと、行政からするとお金のことと、とらえてしまうかもしれないが、私の意図はそうではなく、行政側が民や市民に働きかけ経済を誘発しようという意味です。そういうことを20市町のみならず、関わりたいと考えている民間の方たちと一緒にクラブスポーツ部会をベースにスタジアムの会議をずっと定期的に継続していきたい。それをカテゴリーの一つに入れたほうがいいのではと現在考えています。</p>
県サッカー協会 東部	<p>広域でやっていくという面で、各市町と協定の上、選手との交流などもやっていくことだが、沼津というチーム名を使っている以上、いろいろ厳しい。沼津になぜ出さなければならぬのかとなります。各市町でクラブチームがありますが、これらの関係者でもなぜアスル</p>

支部 坂根	<p>ラロに協力しなければならないのかというのがあります。</p> <p>チーム名を含めて今後検討していただければと思います。</p>
会長 杉本	<p>キーポイントとしては広域ということですが、まちづくり、都市構想の中で、スポーツがどう役割を果たすかという観点が重要です。スポーツメインではなく都市、地域をどうしていくのかという中でスポーツが担う役割としてのスタジアムを考えたい。地域、経済という視点からスポーツをどう活用するか、スタジアムを地域がどう使っていくのか、という発想で今後進めていくということになると思います。アスルクラロにとっては、チームをどうしていくのか、チーム名をどうしていくのかも含めてと思います。</p> <p>いい意味で全員が WinWin の関係になれるような展開を今後続けていく必要があり、そこはぶれないようにしていけば、パイロットプランから構想という力強いものにもなっていけると思います。建設事業主体も、首都圏から企業がやるぞと落下傘のように来られた時にも、こういう形でやりたいと地域が言えないと、都合いいようにされてしまう可能性もある。しっかりとプレゼンできるようなものを残り 2 回ですが作り上げていきたいと思います。</p> <p>議論はまだまだ足りないかもしれませんが、本日はこれで終わりとします。</p>
沼津市 高橋	<p>第 3 回連絡会の日程ですが、日程調整の上、別途ご連絡いたします。</p> <p>以上を持ちまして第 2 回静岡県東部地域サッカースタジアム構想連絡会を終了とします。</p>